

令和7年度 長岡崇徳大学 看護学部看護学科 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(学年配当順)

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
人体の構造と機能Ⅰ	2208010	堀江 正男	2		30	1	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 看護学の構成要素である人体の構造と機能の基礎について学ぶ。生命維持のために分子・組織・器官・個体のそれぞれのレベルにおいてどのようなことが営まれているかを学ぶ。具体的には、組織構造の基本、ゲノム、遺伝子と細胞と組織、血液、造血器機能について学ぶ。続いて、看護の基礎となる人体の構造とその体系を学ぶ。具体的には、骨格系、筋系、神経系の構造と機能について学ぶ。
人体の構造と機能Ⅱ	2208020	堀江 正男	2		30	1	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 「人体の構造と機能Ⅰ」に引き続き、看護学の構成要素である人体の構造と機能の基礎について学ぶ。具体的には、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系の構造について学び、さらにそれらの器官が果たす機能について、呼吸と血液の働き、血液の循環、および体液の調節などに焦点を当てて理解を深め、健康維持のために果たす機能の基礎知識を学ぶ。
看護学概論	2311010	樋本まゆみ	2		30	1	講義	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 学問としての看護学を学修する導入として、看護の概念、看護学の発展の歴史、看護倫理や法律など看護を取り巻く諸事情に関する現実的課題、看護の役割の将来展望について学ぶ。また、看護の本質を理解し看護学の目的論・対象論・方法論について学び、看護実践の基盤となる自然観・人間観・生活観・健康観・看護観を養う。さらに看護の独自性・専門性について理解し、専門職としての看護の役割を学ぶ。
基礎看護技術演習Ⅰ	2311030	大平 富美 大崎 美奈子 田口 めぐみ 樋本 まゆみ	2		60	1	演習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 看護における技術の考え方および共通する基本技術（感染防止、安全・安楽・自立）について学習する。さらに日常生活援助技術として、環境調整、活動・休息、清潔・衣生活、食事、排泄について具体的に学ぶ。演習を通して、看護技術について人間の尊厳と関連して捉えられるように授業を進める。 位置づけ：本科目は基盤となる看護学概論、人体の構造と機能に並行して開講され、看護場面に共通する日常生活援助技術を学習する
基礎看護学実習Ⅰ	2311070	大崎 美奈子 樋本 まゆみ 大平 富美 田口 めぐみ	1		45	1	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 健康障害をもつ対象者の治療と生活の場である病院における療養環境を理解し、看護場面の見学や多職種との連携から看護師の役割について学ぶ。また、対象者とのコミュニケーションを通して、患者と援助的人間関係を築く重要性を学ぶ。 位置づけ：本科目は看護学概論、基礎看護技術演習Ⅰ終了後に開講され、看護場面の見学や多職種との連携から看護師の役割について学習する

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
地域包括ケア論	2313010	平澤 則子 永谷 智恵 板山 稔	1		15	1	講義	【オムニバス形式で保健師・看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 臨床から地域まで、生活に視点をおいて対象を支援することの意義や地域包括ケアの概念について学ぶ。また日本の在宅ケア・医療政策の動向をふまえて、臨床から地域までつなぐ移行期ケアや看看連携の意義を考える。そして地域共生社会の実現に向け、母子から高齢者を対象とした包括的支援についてその役割を理解し、今後の課題について考察する。 位置づけ：地域で生活する人々の暮らしと病気や障害がある人が住み慣れた地域で暮らすことを支える包括ケアの必要性を学ぶことによって、看護の専門性を考える基盤となる科目である。
日本国憲法	1106020	三浦 三蔵	2		30	1	講義	【弁護士が教授する科目】 日本国憲法の制定の過程を学び、また基本原理について理解を深める。具体的には、人権の保障、法の下の平等、信教の自由、表現の自由、生存権などについて理解を深める。特に、人権については、人権尊重、人権擁護をめぐる身近な問題を考える。具体的には、いじめ、外国人差別、障害者への偏見、部落差別、労働に関わる問題、女性労働者と育児、介護に関わる問題などである。さらに、法とは何か、日本国憲法と法律の役割を明確にし、法律に関する基礎的、基本的な知識を身につける
人体の構造と機能Ⅲ	2208030	堀江 正男	1		15	1	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 「人体の構造と機能Ⅱ」に引き続き、内分泌系、免疫系、生殖器系、感覚系、皮膚の構造と機能を学ぶ。ここでは、解剖見学実習を行い、実習後、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容との統合を図る。解剖実習は、新潟市内にある大学の医学部または歯学部にて実施する。この実習を通して、知識の修得統合とともに、人間の尊厳について考える。
病理病態学	2209070	高塚 尚和	1		15	1	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 基本的な病変の原因、成り立ち、経過、転帰など及び疾病の起こるメカニズムについて学ぶ。具体的には、体液異常、血行障害、炎症、変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍、過形成、先天異常、代謝などである。また、患者の示す様々な訴えや診察所見（ショックなど）から原因を探る病態症候論も併せて学習する。解剖学、組織学、生化学、生理学、免疫学など他の学問領域と関連させながら学ぶ。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
看護援助論	2311020	樋本 まゆみ 大平 富美 大崎 美奈子 田口 めぐみ	2		30	1	講義	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 看護独自の援助を行うために、看護理論を活用し、看護を科学的に進める思考過程である看護過程を学ぶ。看護過程は看護を効果的に実践する方法論の一つであり、対象者のニーズを満たす援助を行うための考える力と基本姿勢を養う。 1. 看護理論と看護過程の関係を理解する 2. 看護過程の構成要素を理解する 3. 情報収集の枠組みとその実際 4. 全体像の描き方とアセスメント 5. 看護上の問題と援助を実践するための看護計画 6. 事例を用いた看護過程の演習 ・事例提示・グループワークのオリエンテーション ・看護過程の演習をグループワークで行う ・各グループで立案した看護計画を発表し質疑応答を行う。 位置づけ：本科目は看護学概論を基礎とし、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学実習Ⅰ、人体の構造と機能、薬理学に関連し、基礎看護学実習Ⅱで活用できる問題解決思考を養う。
基礎看護技術演習Ⅱ	2311040	田口 めぐみ 大平 富美 大崎 美奈子 樋本 まゆみ	2		60	1	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 ヘルスアセスメントの意義を理解し、フィジカルアセスメントの基本技術を学ぶ。シミュレーターを活用し臨床判断能力と自ら学ぶ力が育つように進め、さらに看護技術を人間の尊厳に関連して捉えられるように授業を進める。また、感染予防の基本技術、日常生活援助行動（食事、排泄）の援助技術について看護援助の必要性を理解し知識・技術を学ぶ。 位置づけ：本科目は看護学概論、基礎看護技術演習Ⅰ終了後に開講される。また、看護援助論、人体の構造と機能と並行して開講され、ヘルスアセスメントを学習する。
公衆衛生看護学概論	2313060	平澤 則子 菅原 京子 渡邊 路子	2		30	1	講義	【オムニバス形式で保健師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 本人・家族や集団、組織を含む地域を基盤とした看護活動の考え方、公的ヘルスケアサービスの中で機能する看護のあり方を学ぶ。また、予防的介入を基盤とした公衆衛生看護活動を具体的に学び、人々の健康に貢献するために看護がどのように機能することが求められているかを考える。 位置づけ：看護を幅広くとらえる科目であり、地域に住む対象者の健康問題とその影響要因を特定し、個人・家族・集団・地域レベルでの疾病予防、健康状態の改善、多職種との連携を目指して行われる看護を学ぶ基盤となる科目である。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
ベーシック英語	1102090	川崎 眞理子	2		30	1	講義	【英語を使った各種社会活動での実務経験をもつ教員が教授する科目】 国際化する社会の一員として必要となる英語の4技能を発展させる。基礎的な英語の規則を確認し、知りたいことを的確に理解する能力を養成する。目的に応じた正しい英文を書く能力を養成する。一般的な日常生活・看護現場を題材とし、英語運用の練習をする。この過程で、地域社会うや国際社会の課題を意識し、解決方法を考える。ここで身につけた基礎力を基盤に「看護に活かすコミュニケーション英語」で専門的知識を英語で使うことに発展させ、さらに「医療英語」「英文購読」では学術英語の使用へと発展させる。 授業では主体的に学ぶ姿勢を求める。ペアやグループでの作業や各自の振り返りの記録を必須とする。また、自分で知識の定着や技能の伸びを確認するための、クイズや練習、活用や応用を試みる発表やスキットの作成や発表を行います。
福祉と保障	1106030	佐藤 和也		2	30	1	講義	【社会福祉士として実務経験をもつ教員が教授する科目】 社会福祉とは何か、どうあるべきかを理解する。歴史的背景を踏まえた社会福祉の概念や対象・理念を学び、現代の社会福祉の現状と多様性を学ぶ。また、社会福祉と社会保障の概念を明らかにし、現代の社会保障の各種政策・制度を学習する。具体的には、少子高齢化に対する社会保障制度、社会的不平等に対する保証制度などである。また、それを踏まえ、現在のメインストリームである地域ケアにおけるこれからの自立生活支援の考え方を養う。
薬理学	2209080	佐合 絵里	1		15	2	講義	【薬剤師が教授する科目】 薬理に関する基礎的な知識を習得するとともに、基本的な薬物について臨床での活用と関連させて学ぶ。総論として、薬物療法の目的、薬理作用、薬物動態、中毒などを学び、各論として医薬品を系統別に分け、疾病の病態と合わせて治療薬の作用機序、使用方法、副作用相互作用、看護上の留意点について学ぶ。
疾病治療論Ⅰ (循環器)	2209020	伊藤 正洋	1		15	2	講義	【医師が教授する科目】 人間の健康を傷害する主な疾患を系統的に取り上げ、病因・病態・診断法・治療法、予後について学習し、看護実践に結び付けるための基礎知識とする。 ここでは、循環器疾患の成り立ちと症状、検査、診断、治療について学び、看護実践に結びつけるための基礎知識とする。具体的には、心不全・虚血性疾患、高血圧、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、先天性疾患、挫滅症候群などである。治療方法として、薬物療法および手術療法を含む治療例について学ぶ。
疾病治療論Ⅱ (呼吸器・消化器)	2209030	佐藤 和弘 高村 昌昭	1		15	2	講義	【オムニバス形式で医師が教授する科目】 呼吸器疾患、消化器疾患の成り立ちと症状、検査、診断、治療について学び、看護実践に結びつけるための基礎とする。 (佐藤和弘/4回)呼吸不全、呼吸器感染症、肺循環器障害、気胸、腫瘍などについて学び、看護実践に結びつけるための基礎知識とする。治療法については、手術療法の例を含む。 (高村昌昭/4回)消化器疾患の病因から治療までを学び、看護実践に結びつけるための基礎知識とする。治療については、手術療法を含む。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
疾病治療論Ⅲ (内分泌・代謝、腎)	2209090	八幡 和明 中野 正明	1		15	2	講義	【医師が教授する科目】 代謝、内分泌疾患、腎疾患の成り立ちと症状、検査、診断、治療について学び、看護実践に結びつけるための基礎とする。 (八幡和明/4回) 間脳・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、メタボリック・シンドローム、糖尿病などを学び、看護実践の基礎知識とする。 (中野正明/4回) 主な腎疾患と腎機能障害に対する透析療法、腎移植などの治療法を学び、看護実践の基礎とする。
公衆衛生学	2210030	鈴木 翼	2		30	2	講義	【医師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 集団レベルでの健康増進と疾病の予防について公衆衛生学的な考え方を身につける。人々が関わる社会状況、生活環境、保健医療制度ならびに事業、社会保障および社会福祉など、医学・医療が社会とのかかわる領域に幅広くまたがる公衆衛生の概念を理解する。そのうえで、公衆衛生の歴史、現代日本の公衆衛生のシステムと政策などを学ぶ。さらに、公衆衛生活動のあらましを理解するとともに、在宅医療、地域保健、途上国などの現場の活動を学ぶ
基礎看護技術演習Ⅲ	2311050	大崎 美奈子 田口 めぐみ 大平 富美 樋本 まゆみ	2		60	2	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 診断・治療過程にある対象に施される診療（診察・検査・治療）の目的、方法を理解し、診療を補助する看護者の役割と技術を学ぶ。具体的な技術として、検査、与薬、症状・生体機能管理、呼吸・循環を整える技術、電法、創傷管理について学ぶ。また診療に伴う対象の心身の苦痛を最小限に抑え、正確で安全な技術の修得を図る。 位置づけ：本科目は看護学概論、基礎看護技術演習Ⅰ、基礎看護技術演習Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰを終了後開講される。疾病論と並行して開講され、診療補助技術における看護を学習する。
成人看護学概論	2312010	近藤 ふさえ	1		15	2	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 成人期にある人々の特性と健康問題を理解し、看護に必要な理論や概念について学修する。具体的には、成人期の発達課題と特性、成人の健康に影響を及ぼす要因と健康問題の動向を学修し、新潟県下の成人の健康問題を考察する。また、主要理論・概念（セルフケア理論・成人学習理論・自己効力感・ストレスコーピング）および成人期ある人々に関連する主な保健医療福祉の法令・施策の概要について学修する。 位置づけ：成人期の特性と健康問題、理論・概念の学修は、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護実習Ⅰ・Ⅱの基礎とする。
成人看護援助論Ⅰ	2312020	広井 貴子	2		30	2	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 成人期にある人を対象とした手術療法と医学的管理、および周手術期看護について学ぶ。手術療法の対象となる疾患の代表的な術式、もたらされる侵襲と術前術後の基本的な医学管理方法についても学ぶ。次いで、急激な身体侵襲から回復安定を必要とする人の看護、生活調整や再構築を必要とする人の看護について事例を通して学ぶ。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
成人看護援助論Ⅱ	2312030	目黒 優子	2		30	2	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 成人期の主要慢性疾患の診断と治療の特徴を理解し、看護上の問題、看護援助について学ぶ。具体的には、慢性疾患の理解と看護上の問題（腎疾患・呼吸器疾患）、地域における生活習慣病の第2次・3次予防（糖尿病・動脈硬化）、慢性疾患患者のセルフケア支援、地域連携クリティカルパスの概要についても学ぶ。
老年看護学概論	2312080	角山 裕美子	1		15	2	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 人生の最終段階にある高齢者の理解と高齢者観を育むことを目的とする。高齢者を、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面から捉え、成熟現象としての老化が健康に及ぼす影響や日常生活に及ぼす影響を理解し、高齢者の可能性を最大限に活かした高齢者の生き方に寄り添う高齢者看護を理解する。また、高齢者を取り巻く環境では、高齢者及び高齢社会について統計的輪郭から理解を深め、保健医療福祉制度の変遷を知り、高齢者支援における多職種連携の必要性、老年看護の倫理的課題について理解する。
小児看護学概論	2312130	永谷 智恵	1		15	2	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 現代の子どもや家族を取り巻く社会には、生活習慣病の増加、心の問題、育児不安、児童虐待など、様々な健康問題が顕在化している。本講義では、子どもや家族を取り巻く社会の現状を理解しながら、新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の発達段階における成長・発達、養護と看護について学ぶ。さらに、子どもの基本的人権と小児看護倫理から、子どもの利益にかなう看護とは何か、小児看護の理念と責務について共に考えていく。また、母子に関する様々な保健統計から小児保健の動向を知り、現代社会の健康問題を考察して、子どもの健康の保持増進、疾病の予防について学修していく。
母性看護学概論	2312170	太田 操 森 美由紀 佐藤 初美	1		15	2	講義	【看護師・助産師実務経験を持つ教員が教授する科目】 リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、女性のライフステージ各期における心身の特徴と健康課題及びそのヘルスサポートに関する理解、性と生殖に関わる倫理、母子の子育て世代地域包括支援の意義などを学修し、母性へのサポートができるための知識を修得する。
精神看護学概論	2312210	板山 稔	1		15	2	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 心の健康問題についての理解を深め、現代社会における精神保健・医療・福祉の活動とあり方を考える。また、精神保健福祉に関する法律や制度、精神保健福祉の動向について学び、今後の課題と精神看護の役割について考える。心のしくみと人格の発達、精神の健康と障がいのとらえ方、ストレスと適応、精神を病むことを学ぶ。また、精神医療の歴史、精神医療における倫理や法制度について学び、看護の役割を理解する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
地域・在宅看護学概論	2313170	菅原 京子 田辺 生子	1		15	2	講義	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 地域看護学の概念や基本的な考え方をもとに、在宅で療養する人とその家族を理解し、質の高い生活を維持できるようにするための看護のあり方を学ぶ。在宅看護の歴史や社会的な背景をふまえ、在宅看護の概念と対象・活動の場・活動方法の特徴を学ぶ。また、在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源について学ぶ。さらに、在宅ケアシステムと看護の機能について学び、在宅看護の役割と課題を考える。 位置づけ：基礎看護学での学習内容をふまえ、地域で生活する人々への看護支援の必要性を学ぶことによって、各領域（成人、老年、小児、母性、精神）における対象への個別性に応じた看護を学ぶ基盤となる科目である。
公衆衛生看護活動論Ⅰ	2313070	駒形 三和子 平澤 則子 渡邊 路子 山崎 節子	2		30	2	講義	【オムニバス形式で保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 地域で生活する個人や家族・集団・組織に対して、そのヘルスニーズに応じた公衆衛生看護活動の展開方法を理解し、保健師の役割、機能を学習する。ライフサイクルと健康課題ごとの看護活動方法を理解する。母子、成人、高齢者保健福祉や精神・障害者に対する地域看護活動の展開方法を理解し、看護職の役割・機能を学習する。さらに、難病対策における看護職の役割・機能を学習する。
災害看護論	2313140	春川 一樹	1		15	2	講義	【看護師が教授する科目】 災害看護の基礎としての災害看護の歴史、災害看護の定義、救急医療と災害医療との違いを学ぶ。その上で、実際の現場を想定しながら、災害時医療体制の整備への対応にむけて、災害医療と看護や災害の種類と特徴的疾患、災害サイクルや災害各期の看護支援について理解する。さらに災害時の健康障害やそれを支えるための基礎的な知識を学ぶ。県内で起きた雪害、水害、中越地震、中越沖地震などをテーマに災害看護の学習を深めるために、被災状況の特徴のまとめや、被災体験者からの体験談をもとに、災害時のトリアージや、被災者および看護職としての係わり方を学ぶ
疾病治療論Ⅳ （造血器・運動器）	2209050	山田 修 星野 正	1		15	2	講義	【医師が教授する科目】 運動器疾患、神経疾患、造血器疾患の成り立ちと症状、検査、診断、治療について学び、看護実践に結びつけるための基礎とする。 （山田修/4回）白血病などの造血器疾患とその治療法としての化学療法や輸血療法、および放射線療法を学び、看護実践に結びつけるための基礎とする。 （星野正/4回）骨折などの筋・骨格器の障害、脊髄損傷などの神経障害による運動機能障害および放射線治療や麻酔療法について学び、看護実践の基礎知識とする。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
疾病治療論Ⅴ (脳神経・精神)	2209060	笠井 英世 渡部 和成	1		15	2	講義	【医師が教授する科目】 脳神経疾患、精神疾患の成り立ち、症状、検査、診断、治療について学び、看護実践に結びつけるための基礎とする。 (笠井英世/4回) 様々な原因による高次機能制御系障害について、検査、診断、治療法について学び、看護実践のための基礎知識を深める。手術療法の例を含めて学ぶ。 (渡部和成/4回) 精神および行動障害疾患について学び、看護実践のための基礎知識とする。統合失調症などの疾患の他、ストレス関連障害、摂食障害、行動障害、依存症などを含む。
疾病治療論Ⅵ (婦人科、免疫・アレルギー・膠原病)	2209100	安田 雅子 中野 正明	1		15	2	講義	【医師が教授する科目】 女性生殖器及び免疫・アレルギー・膠原病の成り立ちと症状・検査・診断・治療について学び、看護実践に結び付けるための基礎とする。 (安田雅子/全4回) 生殖器の疾患：子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫、腫瘍：乳がん、子宮体癌、子宮頸がん、卵巣がん、月経異常：無月経、月経困難症、黄体機能不全、不妊症、更年期障害、閉経後障害（骨粗鬆症・動脈硬化・認知症等）などの女性特有の疾患について学ぶ。 (中野正明/全4回) アレルギー反応、アレルギー性鼻炎、全身性エリテマトーデス（SLE）、シェーングレン症候群、減感作療法、皮膚疾患（アトピー性皮膚炎など）含む、アナフィラキシーショック、気管支喘息(小児期からの病態と治療) などである。
保健統計学	2210010	鈴木 翼	2		30	2	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 保健統計に関する統計情報として、人口の静態統計、動態統計、生命表などの人口統計の基礎について学ぶ。また基幹統計の意味、国勢調査や人口動態調査、国民生活調査、国民健康・栄養調査や感染症発生動向調査などの既存の資料を素材にして各種データの読み取り方を学ぶ。またそれらの、保健医療情報の収集の方法と実際に学ぶとともに、保健医療情報に関する法令・指針・原則についても学び、実際の現場で保健医療情報を活用できる基礎的能力を養う
疫学	2210050	鈴木 翼		2	30	2	講義	【医師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 地域での根拠に基づく保健医療の現場の看護活動のために、疫学概念と考え方や方法を学ぶ。疫学とは何か、疫学がどのように疾病予防に貢献してきたかを学ぶ。そのうえで、集団の健康状態の把握のための指標について、疾病頻度の指標・暴露効果の指標・寄与危険などについて学ぶとともに、疫学的研究方法についてや、スクリーニング、対象別、疾患別疫学の特徴などを学ぶ。統計分析法、公衆衛生学、保健統計学と関連させて学ぶ。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
基礎看護学実習Ⅱ	2311080	大平 富美 樋本 まゆみ 大崎 美奈子 田口 めぐみ	2		90	2	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 療養している対象者を一人受け持ち、対象者や家族と援助的人間関係を深め、対象者の生活における基本的ニーズの観点から情報収集、アセスメント、計画立案という看護の系統的思考過程の展開を学ぶ。看護を科学的根拠を持って実践することで看護実践の基礎を身につける。また、実習を通して責任ある行動・態度を習得する。 位置づけ：本科目は看護学概論、基礎看護技術演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護援助論の内容を統合する。
成人看護援助論Ⅲ	2312040	広井 貴子 目黒 優子	1		30	2	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 成人看護援助に必要な技術について、科学的根拠を確認しながらより実践的に学ぶ。 成人看護援助論Ⅰ、Ⅱで学習した看護技術や看護援助過程について実践的に学習する。成人看護学実習の事前学習として手術からの回復期の看護を含む周手術期の看護援助技術の習得、および慢性疾患をもつ対象者に対するセルフマネジメントにつながる健康支援について、より具体的で実践的に演習を行うことによって学ぶ。
老年看護援助論Ⅰ	2312090	青柳 直樹 角山 裕美子 多田 健一 袖山 悦子	2		30	2	講義	【オムニバス形式で看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 老年期にある対象の加齢変化とアセスメントの特徴、また加齢変化に伴う生活機能上の課題と高齢者特有の疾患に対する看護に必要な知識・技術について学ぶ。また、高齢者の家族ケアや地域の社会資源を活用した援助について学ぶ。高齢者の倫理的課題についても考察する。
小児看護援助論Ⅰ	2312140	沼野 博子 永谷 智恵 伊藤 文子 船岡 未恵	2		30	2	講義	【オムニバス形式で看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 病気・障がいのある子どもと家族の特徴と看護の役割について学ぶ。入院や外来、在宅等子どもを取り巻く環境や生活の場、災害など状況に応じた看護、病気の経過に応じた看護、子どもの基本的特性をふまえた症状別の看護を学ぶ。具体的な事例を示し、子ども・家族の体験の理解や、子ども・家族を中心としたケアの実践を学ぶ。
母性看護援助論Ⅰ	2312180	森 美由紀 太田 操 佐藤 初美	2		30	2	講義	【オムニバス形式で助産師・看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 周産期女性の身体的・心理的・社会的特徴や胎児・新生児の発育発達過程およびその女性を取り巻く家族についても理解する。妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児および家族の健康上の諸課題を理解し、正常に経過するための援助や自己決定能力・セルフケア能力を高めるための看護援助に活用できる知識を学ぶ。
精神看護援助論Ⅰ	2312220	板山 稔 藤田 勇 成田 みぎわ	2		30	2	講義	【オムニバス形式で看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 精神に健康問題を持つ人と家族への看護を展開するためのアセスメントの視点とその方法を理解し、対象者の精神的な健康の回復、保持・増進に必要な援助方法を学習する。また、精神医療、地域精神保健福祉における法制度の内容と看護者の倫理、関連する専門職種との役割と連携を理解し、看護の役割について考察する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
地域・在宅看護援助論Ⅰ	2313180	田辺 生子 山崎 節子 菅原 京子	2		30	2	講義	【オムニバス形式で保健師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 対象別に在宅療養者とその家族に対する理解を深めるとともに、看護援助の方法を学ぶ。在宅看護で必要とされる基本的な生活援助技術について学ぶ。訪問看護ステーションの役割と機能、病院から在宅への移行のための退院調整、家族のケア、家族間調整、多職種との連携・調整などを学び、家族や地域の環境などを包括した在宅療養者のケアについて考える。 本科目は2年前期の地域・在宅看護学概論の系統科目であり、地域・在宅における実際の看護援助へ向けた各論を講義する。
公衆衛生看護活動論Ⅱ	2313080	渡邊 路子 平澤 則子 駒形 三和子		2	30	2	講義	【オムニバス形式で保健師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 地域の健康危機管理の概念、活動体制と行政看護職の機能・役割、災害、感染症予防等の健康危機の種別に応じた活動方法を学ぶ。さらに、地域生活集団を対象とした看護管理を学び、既存事業の改革や事業化について考える。また、学校保健活動と看護、産業看護職の役割と機能について学ぶ。
公衆衛生看護支援技術Ⅰ	2313210	渡邊 路子 平澤 則子 駒形 三和子 山崎 節子 田辺 生子		2	30	2	講義	【オムニバス形式で保健師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 公衆衛生看護の理念に基づき、住民の家庭、地域社会生活の場において提供する地域看護援助方法を学び、対象の特性に応じた支援における保健師の役割、機能を考える。個人・家族を対象とした家庭訪問・健康相談、集団を対象とした健康教育・健康学習の方法と技術および地域におけるグループ支援の方法と技術を学ぶ。そして、地域住民と共に展開する地域看護活動の目的と方法を考える。 位置づけ：保健師教育課程必修科目です。公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論ので学んだ公衆衛生看護活動の展開に必要な技術を修得する科目です。
看護に活かすコミュニケーション英語	1102100	川崎 真理子	2		30	2	講義	【英語を使った各種社会活動での実務経験をもつ教員が教授する科目】 「ベーシック英語」で習得した技能を活用し、職業人として、看護や医療の場面に活用できる基礎的コミュニケーション能力を獲得する。今後、研究活動に必須の英文情報の収集に向けての基礎固める科目である。看護や医療関係の英語を音声（文字）で習得するとともに、治療や検査、看護援助の場面を想定した状況において、対象者との基本的なコミュニケーションが行えるようリスニングとスピーキング能力を中心に養成する。また、看護や医療に関する題材を英語で見聞きし、音声（文字）で把握し、不明な点を確認できる能力を養成する。扱う題材から社会の問題に気づき、課題解決を考えまとめる力も養成する。授業では主体的に学ぶ姿勢を求める。ペアやグループでの作業や各自の振り返りの記録を必須とする。また、自分で知識の定着や技能の伸びを確認するための、クイズや練習、活用や応用を試みる発表やスキットの作成や発表を行います。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
保健医療福祉行政論	2210020	五十嵐 直子	2		30	3	講義	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 保健医療福祉行政論は、公衆衛生看護を実践するための基礎となるとともに、地域で包括的に住民をケアするための基礎となる科目でもあり、保健師にとっても看護師にとっても必要な科目である。そこで、地域住民がより良い暮らしを営むことを支援する基盤となる保健医療福祉の歴史を理解することから始まり、制度と行政の仕組みを理解する。また、現在の日本の保健医療福祉行政の現状を知り、評価と課題を抽出し、対策を考える。
公衆衛生看護支援技術Ⅱ	2313220	駒形 三和子 平澤 則子 渡邊 路子 菅原 京子		2	30	3	講義	【保健師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 事例を基にした地域看護診断を通して、地域の特性と地域で生活する人々の健康と生活のニーズをアセスメントし、健康課題を明らかにするプロセスを実践的に学ぶ。健康課題に優先順位をつけ、健康課題を解決するための保健事業計画を地域の社会資源を踏まえ立案し、公衆衛生看護活動における保健師の役割を考える。
看護倫理	2311060	樋本 まゆみ	1		15	3	講義	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 看護倫理の歴史的変遷から倫理的課題と概念を理解し、倫理の原則、倫理規定から看護職者に求められる倫理観について学習する。また、医療・看護の場で直面する倫理的問題やジレンマについて理解を深め、その問題解決のために活用できる法的仕組みや意思決定理論を学習する。また、事例を用いて倫理的な問題・葛藤についてグループワークで検討し、その患者にとって最も適切であると判断・行動できるための理論的根拠を考察し、看護職者として責務が果たせる基礎的能力を身につける。 専門科目の看護の基本となるものに位置づけられている。各科目との連携がある
老年看護援助論Ⅱ	2312100	多田 健一 角山 裕美子 青柳 直樹	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 高齢者の健康問題発生のプロセスとその変化を理解するためのヘルスケア・アセスメント技法を習得する。事例を用いて、加齢に伴う諸機能の低下、様々な疾患や薬剤による影響、環境から起こる変化が日常生活に及ぼす影響を考え、老年者の看護に必要な移動、排泄、食事援助、介護予防や老化防止につながる健康教育、コミュニケーション技法について体験型の演習で学ぶ。
小児看護援助論Ⅱ	2312150	伊藤 文子 沼野 博子 永谷 智恵 船岡 未恵	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 子どもの権利を擁護し、子どもと家族に安全で安楽なケアを提供するために科学的な根拠や子どもの成長・発達、特性に基づいた看護技術や態度を学修する。具体的には「子どもの観察・測定」「フィジカルアセスメント」「子どもと家族の観察技術や関わり方」「検査・処置・ケアを受ける子どものプレパレーション」について実践的に学修する。また、事例を通して健康・発達・生活・家族の状況をアセスメントし、子どもと家族の状況に応じた看護過程の展開を小グループでディスカッションを行いながら主体的に学修する。 位置づけ：子どもと家族の概要、子どもの権利、成長・発達、発達課題と特性の理解は小児看護学概論を基礎とする。健康問題のある子どもと家族の看護は小児看護援助論Ⅰを基礎とする。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
母性看護援助論Ⅱ	2312190	森 美由紀 佐藤 初美 太田 操	1		30	3	演習	【看護師・助産師実務経験を持つ教員が教授する科目】 妊娠・出産・育児期の健康問題や家族支援にかかわる看護援助の方法論をもとに、母子の事例を用いた看護過程の学習と看護技術を学ぶ。褥婦の全身・生殖器の復古と回復を助けるための看護援助、母親・家族の役割適応を支援する看護援助を学ぶとともに、新生児の出生直後から胎外生活への移行や退院までのウェルビーイングを助長する看護援助、退院後の生活指導に関する看護援助について学ぶ。
精神看護援助論Ⅱ	2312230	藤田 勇 板山 稔 成田 みぎわ	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 精神看護学概論・精神看護援助論Ⅰで学んだ内容をもとに、精神に健康問題を持つ人とその家族についての事例を通して、入院から社会生活までの看護を理解するとともに、精神に特徴的な疾患や症状をもつ人に対しての具体的な看護援助方法を学習する。さらに地域で暮らす精神に障がいをもつ人の看護についても理解する。
成人看護学実習Ⅰ	2312050	広井 貴子 目黒 優子 近藤 ふさえ	2		90	3	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 急性期・周手術期にある成人を受け持ち、患者とその家族の健康上の問題を理解し、問題解決に向けた看護援助を主体的に考え、集中管理・治療・ケアなどの生命の危機状態にある患者や家族ケアを学ぶ。看護過程を展開していく過程で、患者とその家族の個別性を捉え、変化に応じた看護援助のあり方を考え、看護を創造し発展できる能力を養う。さらに、退院にむけて保健医療福祉チームにおける多職種連携において看護の役割を学ぶとともに自己の看護観を発展させる。 位置づけ：成人期の特徴と健康問題、理論・概念の学習は、成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基礎とする
成人看護学実習Ⅱ	2312060	目黒 優子 近藤 ふさえ 広井 貴子	3		135	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 慢性的な疾患をとともに生活している対象者および家族を理解し、QOLの維持・向上を目指したセルフケア能力や健康問題に適応する能力を支援する看護実践について学修する。 先修科目、重要な関連科目「成人看護学概論」「成人看護援助論Ⅱ」「成人看護援助論Ⅲ」「基礎看護学実習Ⅱ」「病態治療論Ⅰ～Ⅵ」「薬理学」
老年看護学実習Ⅰ	2312110	青柳 直樹 角山 裕美子 多田 健一	2		90	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 介護老人保健施設に入所している高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。看護過程の展開にあたり援助的関係を築き、高齢者の発達課題、家族の状況、疾病や老化が日常生活に及ぼす影響をアセスメントし、健康の維持・増進を考え、高齢者のQ O L 向上をめざした看護を実践する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
老年看護学実習Ⅱ	2312120	多田 健一 角山 裕美子 青柳 直樹	2		90	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 地域で生活する高齢者の健康保持・増進・疾病予防・介護予防や日々の暮らしを様々な側面からサポートする仕組み、保健医療福祉・介護の連携・協働、地域住民の生活を守る包括的・継続的支援について学ぶ。地域密着型サービスのケアを通し、高齢者がくらし慣れた地域で生活していくためのケアのあり方を考察する。地域包括支援センターでは、高齢者のくらしを地域でサポートするための拠点として、「介護予防ケアマネジメント」「包括的・継続的ケアマネジメント」「総合相談」「権利擁護」の実際を通して、個人・地域特性に応じた健康環境づくりや健康保持増進に関連する地域の組織的な暮らしを地域で包括的・継続的に支援することの意義を考察する。
小児看護学実習	2312160	船岡 未恵 永谷 智恵 伊藤 文子 沼野 博子	2		90	3	実習	【看護師の実務経験をもつ教員が教授する科目】 保育所、病院、重症児施設での実習を通して子どもとの関わりから成長発達を理解し、さまざまな健康状態に応じた子どもと家族の看護実践から小児看護に必要な知識・技術・態度を修得する。保育所では地域で生活する子どもたちと関わり、健康な子どもの成長発達や子育て支援の実際を学ぶ。病院では健康障がい有する子どもを受け持ち、小児看護における看護過程を実施する。重症児施設では障がいのある子どもとその家族に必要な療育支援の実際を学ぶ。
母性看護学実習	2312200	佐藤 初美 太田 操 森 美由紀	2		90	3	実習	【看護師・助産師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 周産期にある母性看護の対象者（妊産褥婦・新生児、胎児を含む）とその家族に対して、既習の知識・技術・対応度を統合し、ウェルネス看護の視点で個別性のある看護過程を展開する。 実習は病院やクリニックの産婦人科病棟、外来（助産師外来、母乳外来）などで学ぶ。また、女性と家族が次世代を産み育てるために、家庭や地域における継続的な母子支援も体験する。具体的には、産後ケア施設や子育て支援施設での実習、地域で活動する助産師の沐浴や新生児訪問への同行、母親学級を見学するなど、多様な場で学ぶ。
精神看護学実習	2312240	藤田 勇 板山 稔 成田 みぎわ	2		90	3	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 精神看護学実習では、患者－看護師関係を築きながら、精神に障がいをもつ個人を生物的・心理的・社会的に捉え、強みを活かした健康回復への支援を実施する。関係構築の過程を通して対象者の体験を把握する能力と自己洞察の能力を養う。さらに、精神保健福祉における多職種チームの中での看護師の役割について理解し、看護者として対象者が地域で生活を営む上での必要な援助について理解する。病棟実習、社会復帰施設での実習を行う。
地域・在宅看護援助論Ⅱ	2313190	山崎 節子 菅原 京子 田辺 生子	1		30	3	演習	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 在宅療養者と家族の実際の生活に根ざした看護実践のために必要な知識・技術について、講義と演習を通して学ぶ。具体的には、訪問看護に関わる制度や統計データ、地域・在宅看護学の枠組みに沿った看護計画の立案、一般的なケア、専門的なケア、緊急的なケア、社会資源、多職種連携などについてグループワークを通じて多角的な視点から習得する。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
地域診断論	2313100	駒形 三和子 平澤 則子 渡邊 路子 山崎 節子 田辺 生子		1	15	3	講義	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 ヘルスプロモーションの理念に基づき、健康で暮らしやすい地域づくりをめざした地域看護活動の目的と方法について学習する。地域を看護の対象として認識し、社会との関連で健康課題を理解し、地域で生活する人々の健康と生活のニーズを、多角的にアセスメントする具体的方法を学ぶ。また、人々のニーズをいかした地域看護活動計画について考える。講義のほか、グループ演習も取り入れた科目である。
災害看護活動論Ⅰ	2313150	春川 一樹	1		30	3	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 過去の災害の経験と教訓を共有し、災害対応における共通の言語と原則、被災者の生命と健康の維持のために必要な知識や応急処置について、演習やグループワークを通じて学ぶ。災害看護論を基盤に実際に県内外で発生した地震・雪害・台風・豪雨・原子力災害について振り返り、看護職および地域住民の視点から災害種別毎の被害想定や防災・減災対策を考える。また、居住地のハザードマップを確認し、災害への備えを検討する。
地域・在宅看護学実習	2313200	山崎 節子 菅原 京子 田辺 生子 平澤 則子	2		90	3	実習	【保健師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 訪問看護ステーションでは、在宅療養者のご自宅を訪問し、療養環境を踏まえた訪問看護過程を展開する。そのために、療養者と家族の思いを実際に聴き、人生の物語の観点から課題を抽出し、看護目標・計画を考えていく。さらに、地域の中の社会資源を知り、その活用の実際と多職種連携について考える。また、複数の多様な訪問看護ステーションでの実習の経験を学内カンファレンスで共有し、地域・在宅看護のあり方について考察する。これらを通じて、地域で生活するさまざまな健康レベルにある人びとへの看護のあり方を理解し、看護実践の基盤とする。
看護学研究法	2314070	板山 稔 近藤 ふさえ	2		30	3	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護学における研究（看護研究）に必要な基礎的な知識を習得する。看護研究の意義や目的を理解し、研究デザインに応じたデータ収集方法や分析手法、倫理的配慮等について学ぶ。これらの知識をもとに文献検索、文献レビュー、文献クリティークを行い、研究計画書の作成を体験する。
家族看護論	2315010	斎藤 まさ子		2	30	3	講義	【看護師の実務経験を持つ教員が教授する科目】 家族をシステムとしてとらえ看護する家族看護の理論を学ぶ。具体的には家族の発達周期、システムとしての家族の理解、アセスメントモデルなどである。また看護過程を学び、臨床から在宅まで、それぞれの場で暮らす家族を地域の中で看護する方法について事例を通して学ぶ。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
英文講読	1102120	川崎 眞理子		1	15	4	講義	【英語を使った各種社会活動での実務経験をもつ教員が教授する科目】 「ベーシック英語」「看護に活かすコミュニケーション英語」「医療英語」等で獲得した能力を基盤とし、看護や医療の分野に関する英文記事や英語論文の講読を通して、職業人として必要とされる、より高次の英語読解能力を獲得する。「課題研究」のテーマなど関心の高いテーマについて自ら英文記事や英語論文を検索して情報を収集し、英文を正確に読んで内容を理解するとともに、書かれている内容を要約し、わかりやすく発表する能力を養成する。発表の場は、研究報告などの研究会や学術研究発表会などを想定する。報告までの過程において、課題に主体的・計画的に取り組む、学習者同士支援し合うなど、深く学び合う（協働学習）姿勢を求めます。なお本シラバスは、時間割や履修人数によって学修成果の最適化のために変更することがあります。不明・不安なことは、グローバルクラスルームの機能を活用して共有するなどして快適に学修しましょう。
キャリアデザインⅡ	1104020	藤田 勇		1	15	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 キャリアデザインとは何かを理解し、何を大切に仕事に取り組むのかを考える。また、自己の傾向を知り、自己理解と他者理解にむけてグループディスカッションを行う。さらに、専門職とは何か、プロフェッショナルとして求められる倫理、役割、機能について考える。また、看護師・保健師・助産師に関する情報を収集し、3年間の学びを振りかえるとともに看護専門職としての自己の将来像を考える。そして、これらのグループワークで得たものを発表・意見交換する
成人看護学実習Ⅲ	2312070	広井 貴子 目黒 優子 近藤 ふさえ	1		45	4	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 成人期の健康についての地域特性や社会資源に関する資料・健康指標、健康に対する考え方を外来看護師への相談内容、外来通院の患者、健康増進活動をしている地域住民との交流を通して知り、個人及び地域の健康課題を見出す。次に、地域住民の生活習慣病に対する認識を高め、健康の維持・増進にむけた地域住民向けのイベントの企画・運営をしてヘルスプロモーション活動につなげる。また、成人期の発達課題である子育て、仕事や老親の扶養など健康との関連について考察する。 位置づけ：成人期の特徴と健康問題、理論・概念の学習は、成人看護概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱを基礎とする。
公衆衛生看護活動展開 論実習	2313120	渡邊 路子 平澤 則子 駒形 三和子 菅原 京子		3	135	4	実習	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 保健所および市町村の組織について担当者から説明を受け、保健所・市町村における保健事業・地域看護活動に参加し、公衆衛生看護の目的・目標について理解を深め、地域住民の健康を支援する保健師の役割を学ぶ。また、保健医療福祉チームにおける保健師の役割と連携・協働の重要性を学び、行政看護領域における看護管理の実際と行政保健師の役割を学ぶ。また、産業保健における看護活動の実際を理解し、職業生活を支える労働衛生管理のあり方と看護職の役割について学ぶ。 位置づけ：公衆衛生看護関連科目を基礎とする

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
個人・家族・集団・組織の支援実習	2313130	駒形 三和子 平澤 則子 渡邊 路子 菅原 京子		2	90	4	実習	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 大学周辺の地区をフィールドとして実習を行う。担当した地区の地域診断を行い、明らかになった健康課題解決に向けて健康相談会や健康教育を実施する。 前半実習は、地区踏査、高齢者世帯等への家庭訪問、地域組織の代表者（町内会長、民生委員、健康推進員、食生活改善推進員等）や関係機関（コミュニティセンター、地域包括支援センター等）への聞き取りを実施して、地域で生活する人々の健康課題を健康、生活、社会的条件との関連から検討し、健康課題解決に向けて公衆衛生看護活動計画を立案する。 後半実習は、1週目の実習内容をふまえ、地区で生活する住民とともに地区の健康課題や解決策を考え、健康課題解決に向けて健康相談会や健康教育を実施する。 位置づけ：保健師活動の基本的な技術を住民との関わりを通して学ぶ科目です。
看護管理論	2314010	樋本 まゆみ	1		15	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護を提供するために必要な組織づくりや看護管理の考え方について学ぶ。「看護管理」のもつ印象は、看護管理者のための職務と捉えられやすい。今日、管理の概念や知識は看護職が専門職業人として当然にもつべき必要な概念として位置づけられる。看護管理の目的・機能について理解し、質の高い看護を提供するためのシステムの基礎を学ぶ。組織、医療制度と法律、人的資源管理、看護の提供システム、看護の質保証、継続教育などについて学習し、組織の一員として、また保健医療チームの一員としての役割と責任について理解する。 専門科目の看護の統合と実践に位置付けられており、各科目と連携している。
国際看護論	2314020	中村 勝		1	15	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 グローバル化社会にともなう多様な文化や医療・看護に対する視野を広げ、国際保健医療（グローバルヘルス）や看護の在り方について学ぶ。具体的には、世界の宗教と文化や保健医療の実践について理解し、人々の生活に関連する異文化看護についての基本的な知識を習得する。さらに日本に求められる国際支援政策、国際協力活動における看護師の役割、そして、医療や看護における諸外国との協力関係について具体例をとおして学ぶ。 異文化看護について、国際保健医療の視点を交えて教授する。また、国内の在留外国人に対応するコミュニケーション方法や看護について具体的に説明する。我が国の国際支援政策、国際協力活動における看護師の役割や諸外国との協力関係について、国連の政策をもとに教授する

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
統合実践演習	2314050	目黒 優子 沼野 博子 藤田 勇 佐藤 初美 多田 健一	1		30	4	演習	【看護師実務経験を持つ教員が共同で教授する科目】 本演習では、各専門分野で学修した基礎的な知識および技術の統合を図るとともに、チームメンバーとの協働および看護実践に対する自己の課題を明確化して「統合実践実習」に繋げていくことを目的とする。演習の課題としては、複数受け持ち患者の観察および対応、タイムスケジュール管理、危険予知トレーニング（KYT）などが挙げられる。演習の方法としては、チーム検討をもとに、VRやシミュレーションを活用して実践的に学ぶ。 重要な関連科目と科目の位置づけ：「統合実践実習」につなげる科目である。先修科目：「基礎看護技術演習Ⅰ～Ⅲ」，「チーム医療論」，「疾病治療論Ⅱ・Ⅲ」，2年次までの基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱおよび3年次までの領域別実習すべて
統合実践実習	2314060	渡邊 路子 他	2		90	4	実習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 これまでに学んだ知識・技術を統合し、対象者個々のニーズを的確に判断し、優先順位を考慮した看護実践を行うことで、判断能力・実践能力を身につける。また、看護管理者やリーダーシップ・メンバーシップの役割を学ぶことで、看護におけるマネジメントの基礎的能力を身につける。対象者および家族の健康の回復過程において、様々な役割・機能を担っている医療機関・施設との連携や多職種協働の実際を学ぶことで、その中での看護師の役割を認識する。統合実践実習を通して、自己の責任と能力を的確に認識し、実施した看護について責任をもつ必要性や今後の課題を明らかにする。 位置づけ：3年次までに修得した実習科目及び講義科目の知識・技術を基礎とする。
看護課題研究	2314080	近藤 ふさえ 他	2		60	4	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 研究課題別・指導教員別にグループに分かれ、1・2年次の「情報処理法」「情報活用法」「問題解決法」「統計分析法」や、3年次の「看護研究法」などで修得した知識を生かして、研究計画、研究発表会、実施報告書の完成までのプロセスを学ぶ。 研究課題は看護実践に関するものとし、各自の研究計画を設定する。グループまたは個別の指導を受けながら、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返し、研究成果に関する成果発表へと結び付ける。これらの過程を通して、看護研究の実践的な方法や最新の知識と技術を自ら学び続ける素養を身につける。
リハビリテーション看護	2315030	近藤 ふさえ 沼野 博子		1	15	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 生活機能に障がいをもった人とその家族が生活の再構築をはかり、その人にとっての最適な生活の営みを目指したリハビリテーション看護の理論と方法論を学修する。 主に運動機能障害、高次脳機能障害、嚥下機能障害、排泄機能障害を事例をとおして、リハビリテーション看護の役割と機能および倫理的諸問題を考察する。 位置づけ：臨地実習で遭遇した事例を想起しながらリハビリテーション看護の理解を深める

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
へき地看護論	2315020	平澤 則子		1	15	4	講義	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 へき地の意味と地域特性、その生活と健康の関連を考え、へき地で求められる看護の役割を考える。そのうえで、新潟県について学習を進める。新潟県は山間部や離島があり、医療偏在という課題を抱えている。交通条件及び自然的、経済的、社会的条件に恵まれない山間地や離島など、医療の確保が困難である地域における看護活動について、地域の基幹病院の果たす役割も含めて理解する。また、調べ学習をグループで行い、現状から課題を抽出し、看護に求められる役割について考察するとともに、自己の課題についても考察する。 位置づけ：地域包括ケア論と関連づけて地域の特性に応じた看護を考究する科目である。
リーダーシップ論	1103030	樋本 まゆみ		1	30	4	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 リーダーシップとは、対人関係に現れる影響関係をいう。グループが目標を達成する過程で、互いにどのような影響を受けるのか、リーダーシップとは何か、ラボラトリー方式の体験学習と集団決定法を組み合わせる。グループの中で、自己の態度や行動の傾向を知り、自己のありようを検討する。体験を通して自己理解、他者理解を深め、互いの関係性の中から、リーダーシップの役割や責任について理解する。また、保健医療チームの一員として、看護者のリーダーシップのあり方について考える。基礎教育科目の人間力養成として位置づけられており、各科目と連携している。
国際ボランティア論	1106050	川崎 眞理子		1	15	4	講義	【英語を使った各種社会活動での実務経験をもつ教員が教授する科目】 英語科目においては、医療看護福祉健康に関わるテーマを使って、言語としての英語のみならず、コンテンツも学んできた。また災害支援の知識も身につけた。ここでは既習の知識と言語能力を活用し、国際社会の平和と安定について、現在の世界の情勢を知り、平和とは何かについて自己の考えを明確にする。また、平和な社会の実現のためにどのような貢献ができるかについて、国際的視野で考える。貢献の一つであるボランティア活動の歴史的背景や理念・方針について先行研究等より知り、各自の考えを共有・討議する。活発かつ持続している国内外のボランティア活動を取り上げ、課題について考え、報告・発表する。
看護関係法規	2210040	菅原 京子	1		15	4	講義	【保健師実務経験を持つ教員が教授する科目】 質の高い看護を提供できる専門職として、理解しておかなければならない法について、看護法、医事法、保健衛生法、薬務法等について学ぶ。知識として学ぶだけでなく、その内容の根拠や看護との関係に着目しながら学習する。それまで学んだ他の科目や日常生活での経験、マスメディアやインターネットからの情報、実習での経験と関連付けて学び、日常生活とかけ離れたものではないことも学習するとともに、社会人となるためのレディネスとしての保健・医療・福祉関連の法の学修を統合させる。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
災害看護活動論Ⅱ	2313160	広井 貴子		1	30	4	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 静穏期における災害看護について、災害看護活動論Ⅰで行ったフィールドワークを基に看護職者として災害時の看護方策を考える。一般市民に対し、平時における減災に向けた防災指導について企画することができる。被災地でのトリアージ、各災害場面におけるチーム医療・看護者としての役割について理解を深める。 位置づけ：学んだ知識と実習施設がある地域の特性や大学周囲の環境を把握し、医療者として災害にどう向き合うかを4年次の後期で学ぶ。
医療安全論	2314040	樋本 まゆみ		1	15	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 医療安全における基礎的知識を理解するとともに、医療の現場の取り組みの実際と医療安全対策における看護職者の責任と役割について学ぶ。リスク発生の原因とヒューマンエラーの関連について理解し、現場で発生するインシデント、アクシデントのリスク管理について学ぶ。授業は参加型とし、医療事故の実態調査と分析、与薬や輸液、転倒転落のシミュレーション・リフレクションを行い、グループによる事例分析などの演習を組み入れる。専門科目の看護の統合と実践に位置づけられており、各科目との連携がある。
看護実践力演習	2314090	広井 貴子 大崎 美奈子		1	30	4	演習	【看護師実務経験を持つ教員が教授する科目】 看護実践力を向上させるために、自己の課題に沿って看護技術の練習を行う。第1回目に看護基礎技術の到達度チェックを行い、自己の課題を明らかにする。また、卒業時看護技術到達項目の中で共通する課題を明らかにし、到達度が低い項目に着目した演習計画を立てて実践的にグループ演習を行う。同時に、受け持ち患者を想定した状況設定を行い、看護の手順や対象者の尊厳を考えた実施計画と実践を練習する。対象者への説明や指導の場面では、ロールプレイなどを取り入れてより現実的な演習とする。最終的には、グループ間で相互評価を行い、学生自身の気づきと相互評価力を育成する。 位置づけ：基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、地域・在宅看護学の領域実習すべてを基礎とし、卒業年度において学生自身の看護技術到達度をもとに卒業後の専門職としての自己の課題を明らかにする
緩和・ターミナルケア看護論	2315040	近藤 ふさえ 広井 貴子 沼野 博子 多田 健一		2	30	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員がオムニバス形式で教授する科目】 緩和・ターミナルケアを取り巻く医療・看護の現状を把握する。一人ひとりの自己決定を尊重するとともに、倫理的視点から考えることを学習する。 発達段階（小児・AYA世代・成人・老年期）にある人の死の捉え方、心理や家族の抱える課題、介入方法およびビハラー病棟での看護の実際についてオムニバス形式で授業を行う。第11・12・14回講義では専門の特別講師を招いて指導を行う。 位置づけ：臨地実習では体験することが少なかった緩和・ターミナル期になる対象者とその家族の看護の理解を深め、キャリア形成の礎とする。

科目名	科目番号	担当	単位数		時間数	学年配当	授業形態	内 容
			必修	選択				
認知症ケア論	2315050	角山 裕美子 青柳 直樹 多田 健一 袖山 悦子		2	30	4	講義	【看護師実務経験を持つ教員がオムニバス形式で教授する科目】 認知症の病態と関連要因の理解と、認知症とともに生きる人の体験を通して、認知症の人のその人らしさを支える視点および家族ケアの視点から看護展開できる基礎的能力を養う。具体的には、認知症ケアにおける倫理的課題を取り上げ、権利擁護における看護の役割を学ぶ。また、認知症の人の生活環境の整え方やリスクマネジメント、ケア技法について学習する。グループホームや小規模多機能型居宅介護でのフィールドワークを取り入れた授業である。
合 計			99	32	3,090			